

研究種目：若手研究 B  
 研究期間：2006～2008  
 課題番号：18730562  
 研究課題名(和文) 軽度発達障害児の読書力とその規定要因の関係および言語指導の方法に関する研究  
 研究課題名(英文) The Relationships between Reading Comprehension and Componential Factors in Preschool Children and Effective Reading Instruction  
 研究代表者  
 堀江 真由美(HORIE MAYUMI)  
 県立広島大学・保健福祉学部・助教  
 研究者番号：90310862

## 研究成果の概要：

就学前児の読解力レベルごとに関係要因を明らかにした。読解力レベルを3つに分け、検討した結果、読解力と読みの速さ・理解語彙能力・言語処理を伴った作動記憶にはそれぞれ有意な相関が得られた。また、短文読解できる者と出来ない者では、読みの速さの成績に差が見られ、短文読解と文章読解できる者では読みの速さ・語彙能力・言語処理能力に差が見られた。

## 交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
18年度	600,000	0	600,000
19年度	500,000	0	500,000
20年度	400,000	120,000	520,000
年度			
年度			
総計	1,500,000	120,000	1,620,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・特別支援教育

キーワード：医療・福祉，教育系心理学，軽度発達障害児，学習困難，読解力

## 1. 研究開始当初の背景

軽度発達障害児の就学後の問題として、読解力のつまずきがある。読解力をつける対応策は、読解力を規定する要因へのアプローチから考えていく必要がある。本研究では、読解力を規定する要因とは、文字読み入門期では文字表記された単語を音韻的に符号化する段階での効率性と作動記憶の容量および言語処理能力と考える。これらの読解力を規定する要因と読解力の関係を明らかにし、軽度発達障害児が読解につまずく原因を探り、その指導法を検討する必要がある。

## 2. 研究の目的

本研究は、第一に文字読みの入門期にある健常幼児・児童の読解とその規定要因の関係について、関係性を段階付けした見やすい指標を作成し、加えて読解力が身につく過程を明らかにすることを目的とする。また第二の目的として、軽度発達障害児に対して読解力とそれを規定する要因の関連を検討し、読解力をつけるアプローチを検討する。

## 3. 研究の方法

(1) 読解可能な文の長さや読解力を規定する要因(読み処理速度、語彙理解力、言語処理能力)との関係を文の長さの段階で分けた指標を作成する。

(2) 読解と聴覚的理解の関係について、文の長さの違いによる発達過程の違いを検討する。

## 4. 研究成果

### (1)

就学前児の読解力レベルごとに関係要因を明らかにすることを目的とした。就学前児に読解力課題を試行し、関係要因との関係を読解力レベルごとに検討したことが本研究の特徴だと言える。読解力レベルを3つに分け、検討した結果、読解力と読みの速さ・理解語彙能力・言語処理を伴った作動記憶にはそれぞれ有意な相関が得られた。また、短文読解できる者と出来ない者では、読みの速さの成績に差が見られ、短文読解と文章読解できる者では読みの速さ・語彙能力・言語処理能力に差が見られた。このことから、短文理解には読みの速さが一定速度以上の必要があり、音韻的な符号化の効率性と読解力の関連性が示唆された。また、文章理解には音韻の符号化が一定速度であることに加えて、語彙能力と言語処理能力が必要であることが示唆された。

### (2)

就学前児に対して、同一課題文の読解と聴覚的理解を実施し、読解と聴覚的理解の関係には相関関係があった。短文レベルの読解可能な子どもでは読解得点より聴解得点が有意に高くなっているが、文章レベルの読解可能な子どもでは聴解得点と読解得点では有意差は無くなった。読解の初歩段階では、聴覚的理解が先に発達するが、文章レベルになると、聴覚的理解に読解が追いつくことが示された。

読解レベルと聴覚的理解レベルの関係でみると、短文読解できない者では短文の聴覚的理解までが可能な者が多く、短文読解できる者では文章の聴覚的理解が可能な者が多くなった。

読解力が育つには聴覚的理解力が関与し、聴覚的理解力を育てるには語彙理解力がその基盤として必要だと考えられた。

読解レベルと関係要因の課題の平均  
(標準偏差)

	読解 得点	聴解 得点	読み の速さ	語彙 修正 得点	数唱 得点
読解 1群 N=5	0 (0)	19.0 (6.0)	99.8 (11.8)	23.8 (4.2)	10.2 (1.8)
読解 2群 N=7	15.3 (8.5)	25.6 (4.6)	62.1 (28.7)	29.9 (5.2)	8.9 (1.1)
読解 3群 N=10	32.5 (4.6)	30.7 (4.7)	37.0 (10.0)	34.0 (2.5)	10.9 (0.7)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

堀江真由美、玉井ふみ、就学前児の読解力 聴覚的理解力との関係を中心に、県立広島大学保健福祉学部誌「人間と科学」、第9巻1号、PP.29 - 38、2009年3月、査読有り

堀江真由美、玉井ふみ、文字を読みはじめた時期の子どもの読解力とその関係要因について、県立広島大学保健福祉学部誌「人間と科学」、第7巻1号、PP 71 - 81、2007年3月、査読有り

〔学会発表〕(計 3 件)

堀江真由美、玉井ふみ、文字を読みはじめた時期の子どもの読解力とその関係要因について、広島保健福祉学会第8回学術大会、2007年12月8日、広島県三原市

堀江真由美、玉井ふみ、文字を読みはじめた子どもの読解力と関係する要因、日本LD学会 第16回大会、2007年11月24日、横浜市

堀江真由美、玉井ふみ、就学前の子どもの読み能力とその関係要因について、第32回コミュニケーション障害学会、2006年7月15日、北海道

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕  
出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

6. 研究組織

(1)研究代表者

堀江 真由美  
県立広島大学・保健福祉大学・助教  
研究番号 90310862

(2)研究分担者

(3)連携研究者